

新正書法準拠
Nova Ortografia

SAMPLE

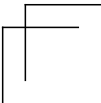
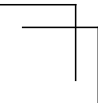
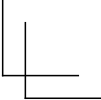
増補改訂版

基礎ポルトガル語文法

Nova Edição Revista e Aumentada
Gramática Essencial do
Português

彌永史郎 著

Shiro Iyanaga



はじめに

本書はポルトガル語を基礎から学ぶための文法書です。

ポルトガル語はヨーロッパのポルトガル、南米のブラジルをはじめアフリカのアンゴラ、カーボヴェルデ、ギニア・ビサウ、サントメ・イ・プリンシペ、モザンビークなどの国々、さらにはアジアの東ティモールに至る広い世界で用いられる言語です。その使用人口は2億8千万人、世界第4位の言語と言われ、世界各地に散在するポルトガル語系コミュニティーも含めるとその通用範囲は広大です。またラテン系諸語のひとつで、イタリア語、スペイン語、フランス語、などとも共通項の多い実用的な言語です。

この本で学ぶ文法は広大なポルトガル語圏におけるコミュニケーションの軸となる標準的な書き言葉の文法です。文語文法という、いわゆる学校文法として知られる規範文法を連想する向きもあるかもしれませんが、しかし本書ではポルトガル語の実用的な言語使用に即した実証的な研究成果を盛り込み、標準的な文語文法を簡潔に解説すべく努めました。

東ティモール人とブラジル人とが互いにポルトガル語で話を通じるのは、その基本となる言語の規則、つまり文法を共有しているからです。むろん標準的口語は時代と共に少しずつ変化し標準的な文語に反映していきませんが、文語の変化は口語に比べてゆるやかで、その骨組みである文法は簡単には変化しないのです。

言語の根本は音声ですから、発音や音調に関する重要な解説をはじめ標準的な口語に関する重要な項目もできる限り盛り込むようにしました。正確で標準的な発音を学べるよう、必要に応じて国際音声アルファベットに基づく正しい音声表記を併記してあります。

ポルトガル語圏には大きく分けてヨーロッパのポルトガル語(PE)とブラジルのポルトガル語(PB)の2種類の言語グループがあります。最近ではインターネット経由でポルトガル語圏アフリカ諸国の人々が話すポルトガル語も容易に耳にできるようになりました。こうしたアフリカ諸国ではPEに準ずるポルトガル語が概ね標準とされています。PEとPBの両者は音声をはじめ、語彙、形態、統語、意味などさまざまな点で体系的対照を見せています。本書ではPE、PB両者の文法事項について、必要に応じた解説をバランスよく加えてありま

す。読者は自らの興味や必要に従って、どちらかに重きをおいて学習するとよいでしょう。すでにポルトガル語を勉強したことがあり、基礎的な素養のある方が知識を見直すためにも十分な内容が含まれています。

本書では2016年に完全に移行した新正書法に準拠すべく、旧版を改訂しました。改訂にあたり、内容を精選し簡潔で十分な解説に配慮しました。同僚の上田寿美先生、岐部雅之先生に校正をお手伝いいただき、練習問題の編集・作成には上田先生の綿密な仕事に大きく負っております。またポルトガル語の範例文の校閲は同僚のカリーナ・サルダーニャ先生に、初版の索引作成には塚田智恵先生に大変お世話になりました。皆様の緻密な修正と真摯な提案によって改訂版が可能になった次第です。記して深謝いたします。

本書では基礎的な内容を中心に、中級・上級の文法事項についても参照可能な構成にしています。学習者の便宜のためインターネット上で参照できる様々なポルトガル語関係のサイトやアプリケーションを巻末で紹介しました。オンライン辞書、動詞活用表（音声表記付き）、文法用語小辞典、正書法語彙表(VOP)など携帯端末からも容易にアクセスできる重要なツールを活用して下さい。

外国語の表す意味に到達するには、正しい文法の理解が不可欠です。ポルトガル語の修得を目指す読者の皆さんが、本書を通じて、さらに深く正確なポルトガル語のコミュニケーションを達成されることを願って止みません。

2018年1月

改訂版第1版を上梓して以来散見された誤植等を修正し、さらに前置詞に関して加筆し、このたび増補改訂第3版を刊行することとなりました。例文の校閲にはいつもながら同僚のペドロ・アイレス先生に大変お世話になりました。『ポルトガル語四週間』のダイジェスト版を目指して2007年に始めた仕事は少々方向を変えて一区切りついたと思います。記して皆様のご協力に御礼申し上げます。

2022年7月

著者しるす

目 次

第1課.....	1
1.1. 発音と正書法.....	1
1.2. 文字.....	1
1.3. 音声記号.....	2
1.4. アクセント記号.....	3
第2課.....	5
2.1. 注意を要する子音字.....	5
2.2. 強勢とアクセント記号.....	7
第3課.....	11
3.1. 名詞の性と数.....	11
3.2. 文法性と自然性.....	11
3.3. 文法性の区別.....	11
3.4. 名詞の数.....	13
3.5. 定冠詞と不定冠詞.....	16
3.6. 存在をあらわす動詞 haver の用法.....	16
3.7. 人称代名詞と敬称代名詞.....	17
3.8. 叙述動詞 ser の直説法・現在形.....	17
3.9. 文法的人称と機能的人称.....	18
3.10. 親称の主格人称代名詞.....	18
3.11. 肯定文と否定文.....	19

目次

第4課.....	21
4.1. 定冠詞・不定冠詞と前置詞の縮約.....	21
4.2. 叙述動詞 <i>estar</i> の直説法・現在形.....	22
4.3. 叙述動詞 <i>ficar</i> の直説法・現在形.....	23
4.4. 定冠詞の用法.....	23
4.5. 不定冠詞の用法.....	27
4.6. 数詞の用法 — 1から20までの基数と序数.....	28
4.7. 曜日名、月名.....	29
4.8. 季節の名称.....	30
第5課.....	33
5.1. 形容詞の用法と位置.....	33
5.2. 形容詞の性と数.....	33
5.3. 形容詞の文法性.....	34
5.4. 形容詞の数.....	37
5.5. 動詞 <i>ir, vir</i>	38
5.6. 疑問詞 <i>onde</i> の用法.....	39
5.7. 数詞の用法 — 21から100までの基数と序数.....	40
第6課.....	43
6.1. 規則動詞の分類.....	43
6.2. 動詞変化.....	43
6.3. 直説法・現在形の活用と発音：規則変化動詞.....	43
6.4. 叙述動詞.....	46
6.5. 数詞の用法 — 101以上 1,000 までの基数と序数.....	49
6.6. 数の表現 (1,000 以上).....	49
6.7. 概数.....	50

第7課.....	53
7.1. 平叙文と疑問文：音調の役割.....	53
7.2. 音調の基礎.....	53
7.3. 疑問詞 <i>quanto(s)</i> , <i>quanta(s)</i> の用法.....	55
7.4. 疑問詞 <i>quem</i> の用法.....	56
7.5. 不定冠詞の複数形.....	56
7.6. 文の種類.....	56
7.7. 付加疑問文.....	57
第8課.....	61
8.1. 人称代名詞.....	61
8.2. 前置詞とともに用いる人称代名詞.....	61
8.3. 前置詞 + <i>si</i> 及び <i>consigo</i> の用法.....	62
8.4. 人称代名詞の用法と無強勢代名詞の位置 — 1.....	62
8.5. 指示詞.....	65
8.6. 指示詞の用法.....	66
8.7. 所有形容詞.....	67
8.8. 疑問詞 <i>que</i> の用法.....	68
8.9. 疑問詞 <i>como</i> の用法.....	69
8.10. 疑問詞 <i>quando</i> の用法.....	69
8.11. 時間の表現.....	69
第9課.....	73
9.1. 人称代名詞、 <i>o(s)</i> , <i>a(s)</i> の形式.....	73
9.2. 無強勢代名詞の位置 — 2.....	75
9.3. 指示代名詞としての <i>o(s)</i> , <i>a(s)</i> の形式.....	75
9.4. 無強勢代名詞の縮約.....	76
9.5. 副詞.....	76
9.6. 不規則動詞.....	78

目次

第10課.....	85
10.1. 比較.....	85
10.2. 形容詞の最上級.....	86
10.3. 比較表現.....	88
10.4. 疑問詞 qual の用法.....	89
10.5. 関係代名詞 que の用法.....	90
10.6. 関係代名詞 quem の用法.....	91
10.7. 関係代名詞 qual, quais の用法.....	92
10.8. 不定詞.....	92
第11課.....	95
11.1. 助動詞.....	95
11.2. 現在分詞.....	95
11.3. 助動詞の主要な用法.....	96
11.4. 現在分詞を伴う動詞迂言表現.....	99
第12課.....	103
12.1. 関係代名詞の用法.....	103
12.2. 不定代名詞.....	104
12.3. 接続詞としての que の用法.....	108
12.4. 疑問詞 porque l por que の用法.....	108
12.5. 無強勢代名詞の位置 — 3：従属節において.....	109
12.6. 疑問詞のまとめ.....	110
第13課.....	113
13.1. 能動態と受動態.....	113
13.2. 過去分詞.....	113

目次

13.3. 過去分詞の用法	115
13.4. 現在分詞の用法	116
13.5. 再帰代名詞	118
13.6. 非人称動詞	121
13.7. 命令文	121
13.8. 命令法	122
第14課	125
14.1. se 付き動詞の用法	125
14.2. se の位置	126
14.3. 接続詞 se に導かれる従属節	126
14.4. 感嘆文	127
14.5. 直説法・過去形	127
14.6. 直説法・過去形の活用	127
14.7. 直説法の時称体系:現在形と過去形	129
14.8. 直説法・現在形の用法	130
14.9. 直説法・過去形の用法	131
第15課	133
15.1. 直説法・未来形	133
15.2. 直説法・未来形:不規則動詞	134
15.3. 直説法・未来形の用法	134
15.4. 直説法・未来形と動詞迂言表現	135
15.5. 内接辞を伴う形式	136
15.6. 主要な動詞迂言表現	137
15.7. 文の構造と動詞の意味	138
15.8. 形容詞の支配	139

目次

第16課.....	141
16.1. 直説法・複合過去形	141
16.2. 不定詞	142
16.3. 数に関する基礎的表現	145
16.4. 直説法・半過去形	147
16.5. 直説法・半過去形の活用	147
16.6. 直説法・半過去形の用法	149
16.7. 直説法・過去形と直説法・半過去形	151
第17課.....	155
17.1. 直説法・大過去形	155
17.2. 直説法・大過去形の活用	155
17.3. 直説法・大過去形の用法	157
17.4. 複文：名詞節の機能	159
17.5. 話法の基礎	161
17.6. 話法：変換の原則	162
17.7. 直説法・過去未来形	163
17.8. 内接辞をともなう形式	165
17.9. 直説法・過去未来形の意味・用法	165
第18課.....	169
18.1. 直説法・複合未来形	169
18.2. 人称不定詞	170
18.3. モダリティ	173
18.4. 前置詞と冠詞が縮約しない場合	176
18.5. 引用符	176

第19課	179
19.1. 命令文：接続法・現在形	179
19.2. 命令文：主語と動詞の形式	182
19.3. 命令文の種類：肯定命令文と否定命令文	184
第20課	191
20.1. 従属節における接続法	191
20.2. 祈願文	193
20.3. 形容詞節における接続法	193
20.4. 接続法・未来形	194
20.5. 接続法・未来形(単純形)の活用	194
20.6. 接続法・複合未来形	196
20.7. 接続法・未来形の用法	196
20.8. 接続法・複合未来形の用法	197
20.9. 副詞詞節における接続法	197
第21課	201
21.1. 接続法・半過去形	201
21.2. 接続法・大過去形	204
21.3. 直説法・複合過去未来形	205
21.4. 条件文：条件節(副詞節)と帰結節(主節)	207
21.5. 条件文による丁寧・婉曲表現	210
21.6. 比喩表現における接続法：como se	210
第22課	213
22.1. 接続法・過去形	213
22.2. 時称のまとめ	215

目次

22.3. 現在の時間軸における前後関係	216
22.4. 過去の時間軸における前後関係	217
補遺	221
I. 話法	221
II. 話法の変換	226
III. 前置詞	230
引用文献一覧	252
索引	255

補遺

I. 話法

話者が他者の思考や発言を言語により伝える方法をいう。伝達の方法によって、伝統的には直接話法、間接話法及び描出話法（自由間接話法）を認めるが、本書ではさらに自由話法を加え、4種類の話法を扱う。

(1) 直接話法

話者が他人の思考や発言をそのまま引用・再現して伝達する方法。引用を導く動詞を伝達動詞と呼び、典型的な伝達動詞には *afirmar*, *anunciar*, *dizer*, *perguntar*, *responder*, *sugerir* などがあるが、話者の意図により伝達動詞はさまざまな可能性がある。また引用される内容は基本的には、コロン (:) のあとにダッシュ記号 (—) を介して示す⁽¹⁾。

O homem disse: — O assunto é importante. 男は「その件は重要です」と言った。

伝達動詞を後置しても良い。

— O assunto é importante — disse o homem.

伝達動詞は引用の間に挿入されたり後置されたりすることもある。

O meu amigo respondeu: — Hoje está mesmo frio, e parece que vai nevar. 「今日は本当に寒いし、雪が降りそうだ」と私の友人が答えて言った。

1. ポルトガル語では、それぞれ «: dois pontos», «— travessão」と呼ぶ。

— Hoje está mesmo frio — respondeu o meu amigo —, e parece que vai nevar!

— Hoje está mesmo frio, e parece que vai nevar — respondeu o meu amigo.

O programa não lhe parece um pouco confuso? — perguntou o colega com ironia. 「計画はちょっと混乱して見えませんか?」と同僚が皮肉を込めて私に尋ねた。

話者が自問自答する内容を引用する場合もある。このような場合は実際の発話とは異なることを示すため二重山括弧（ギュメ）«...»を用いる²⁾。

«Tens de tentar!» — encorajei-me a mim mesmo. 「試してみなければならぬ」と私は自分自身を奮い立たせた。

(2) 間接話法

話者が他人の思考や発言を自らの解釈を加えて引用・伝達する方法。直接話法が演劇における台詞を思わせるのに対し、間接話法はより客観的で冷静な話者の判断の提示という印象を与える。文法的には、引用される内容が伝達動詞の導く名詞節の形をとる。伝達動詞の内容によって、名詞節を導く接続詞は *que*（～ということ）あるいは *se*（～かどうか）を用いる。

A Emília disse que a comida do restaurante não era nada de especial. エミリアによると、その食堂の食事は特に変わったものではないとのことだった。

2. 語句、特に外国語の引用にはポルトガル語では基本的に二重山括弧（ポルトガル語では «aspas» と呼ぶ）を用いる。ex. «ratos» para computador, «very good».

解説：直接話法で発話を再現すれば、以下のようになろう。

— A comida do restaurante não é nada de especial — disse a Emília.
エミリアは「食堂の食事は特に変わったものじゃありません」と言った。

O José garantiu que a encomenda não tinha chegado no dia anterior. ジョゼーは前の日に荷物が届いていなかったのは確実だと言った。

解説：直接話法で発話を再現すれば以下のようになろう。

— A encomenda não chegou ontem — garantiu o José. ジョゼーは「荷物は昨日には届いていませんよ」と請け合った。

O professor perguntou ao aluno se ia receber o atestado em breve. 先生は学生に証明書を間もなく受け取る予定かどうかを尋ねた。

解説：直接話法で発話を再現すれば以下のようになろう。

— Vai receber o atestado em breve? — perguntou o professor ao aluno.
O professor perguntou ao aluno: — Vai receber o atestado em breve?
先生は学生に「間もなく証明書を受け取る予定ですか」と尋ねた。

(3) 描出話法（自由間接話法）

描出話法は自由間接話法とも呼ばれ、直接話法と間接話法との中間に位置する話法である。小説などに頻用され、この話法の読解がストーリーの理解には欠かせない。文法的には伝達動詞や接続詞を欠くことが多く、また間接話法における時称の一致がほぼ正確に保たれる。こうした原則に関わらず、書き手の創意によりきわめて自由に展開していくのが特徴である。

□ 直接話法

O João pensou: — A Paula está a mentir. Ela não disse a verdade ao pai. 「パウラは嘘をついている。父親には本当のことを言わなかったんだ」とジョアンは考えた。

□ 間接話法

O João pensou que a Paula estava a mentir e que não tinha dito a verdade ao pai. パウラは嘘をついているし、父親には本当のことを言わなかったのだとジョアンは考えた。

□ 描出話法

O João pensou. A Paula estava a mentir. Não tinha dito a verdade ao pai. ジョアンは思った。パウラは嘘をついている。父親に本当のことを言わなかったのだ。

(4) 自由話法⁽³⁾

日常的な会話で頻繁に用いられる話法で、伝達動詞を最低限に省く。日本の噺家の演ずる話芸に通ずる話法。西欧語の話芸«Standup comedy»にも用いられる方法であり、登場人物の「台詞」の転換が微妙な口調や表情の変化などによって展開する。登場人物の発話が切り替わる箇所には明瞭な標識がないので、口語の使用に慣れないと話の筋を見失い状況を把握しきれないことも多い。小説をはじめとする文学作品においても自由話法は頻繁に用いられる。以下の自由話法の例 (1) を参照してみよう。

3. 彌永・ロドリゲス(2015) p. 355-362. 描出話法とも直接話法とも異なる独特の口語的話法. 本書では「自由話法」の名称を用いる。

(1) A primeira vez que ouvi a melodia foi num bar na Baixa, o João tocou-a ao piano. Gostei tanto que lhe disse: ah, queria cantar e gravar essa canção! Mas não tinha letra... Perguntei então ao Tiago, que era um bom amigo e letrista: o João compôs uma melodia lindíssima, mas não tem letra... Podias escrever tu? Está bem, vou falar com o João, e alguns dias depois, lá estávamos os três a ensaiar! E foi assim que surgiu uma canção muito especial para nós.

上の例において話し手の「私」の発話に加えて、ほかに登場する「ジョゼー」の発話、さらに話し手の説明に相当する部分が明確になるよう標識として、話し手の描写の部分の直前には[descrição]、話し手の発話の直前には [falante]、ジョゼーの発話の直前には [Tiago] と表示したのが以下の (2) である。

(2) [descrição] A primeira vez que ouvi a melodia foi num bar na Baixa, o João tocou-a ao piano. Gostei tanto que lhe disse: [falante] ah, queria cantar e gravar essa canção! [descrição] Mas não tinha letra... Perguntei então ao Tiago, que era um bom amigo e letrista: [falante] o João compôs uma melodia lindíssima, mas não tem letra... Podias escrever tu? [Tiago] Está bem, vou falar com o João, [descrição] e alguns dias depois, lá estávamos os três a ensaiar! E foi assim que surgiu uma canção muito especial para nós.

【翻訳例】

初めてそのメロディーを聴いたのは下町の、あるバールでなんだけど、ジョアンがピアノで弾いてくれたんだ。すごく気に入ったから彼に言ったわけ。その曲、僕が歌って録音したいなあ。でも歌詞がなかったんだ。それで親友で作詞をやるティアーゴに聞いてみたのさ。ジョアンがすごく綺麗なメロディーを作曲したんだけど歌詞がないんだ。書いてくれないか? いいよ、ジョアンと話してみよう。それから何日か経って、3人でリハーサルしてみたんだ。こんな風にして僕らにとってはとても特別な歌が出来上がったってわけだ。

補遺

以上のように、語り手を男性と仮定して日本語に訳してみたが、当然のことながら語り手を女性とすれば、様々な調整が必要になる。また人物の性格設定、使用する方言などによっても日本語版には色々な変更が求められることが容易に理解されよう。このように話法は口語、文語を問わずテキストの理解に重要な役割を果たしている。

II. 話法の変換

直接話法と間接話法の間では、一般的には以下のような原則によって話法を変換することが可能である。一方でこれらの原則は話者の解釈によって、あるいは実際の事情によってさまざまな変更の可能性がある。

a) 人称の変換：自称、他称の代名詞を他称へ。

O João perguntou à Maria: — Foste à festa? ジョアンはマリーアに聞いた。「パーティーには行ったの?」

→ O João perguntou à Maria se tinha ido à festa. ジョアンはマリーアにパーティーには行ったのかどうかを尋ねた。

解説：直接話法における「tu」は間接話法において文面に現れないが「ela」であるから、動詞の形式は3人称単数形で「tinha ido」となる。

b) 時称の変換：現在形を半過去形へ。

Ela questionou-me: — Tencionas perguntar-lhe diretamente? 彼女は私に尋ねた。「あなた、彼に直接聞くつもり?」

→ Ela questionou-me se eu tencionava perguntar-lhe diretamente. 彼女は私が直接彼に聞くつもりかどうかを尋ねた。

O pai perguntou à filha: — **Quem** é que te telefonou? 父親が娘に聞いた。「誰がお前に電話して来たんだい?」

→ O pai perguntou à filha **quem** é que lhe tinha telefonado. 父親は娘に誰が彼女に電話して来たのかと尋ねた。

III. 前置詞

前置詞は不変化の品詞で、ある語の前に置かれて文法的な機能を果たす。文中でふたつの文構成要素の間に置かれると、それらの要素間の関係をあらわす。例えば以下の二例に見られるように、前置詞は目的地や出発点の位置などを示す重要な役割を果たす。

Hoje à noite, os jovens vão **a** Tóquio assistir ao concerto. 若者たちは今夜、コンサートを観に東京に行く。

Há uma semana, o João voltou **do** Japão são e salvo. ジョアンは1週間前に日本から無事戻った。

形式的には1語でなりたつ単純形前置詞と数語で構成される句前置詞とがある⁽⁴⁾。

Tivemos de ficar **em** casa vários dias. 何日も家に居なければならなかった。

O escritor guardava as velhas cartas de amor **dentro de** uma caixa de madeira. その作家は昔のラブレターを木箱の中に取めていた。

4. 本書では以後、単純形前置詞を単に「前置詞」と呼び、数語で構成される複合形前置詞 (preposição composta) には句前置詞 (locução prepositiva) を用いる。

(1) 前置詞

前置詞の意味が明確で、場所や時間の基準点、あるいは基準点との関係を示すために用いられる場合もあるが、先行する動詞、形容詞、名詞などにより、用いる前置詞が決まっていることが多い。その場合は、前置詞そのものの意味は明確ではないが、必ず連携して用いられねばならないという統語的制約がある⁽⁵⁾。以下主要な前置詞の意味と用法を概観する。

- **a ...** 主に方向、場所、時などを示す。「に、へ」。動詞等の支配による用法では義務的だが特に意味を持たない場合もある。

Amanhã vou **a** Osaka para tratar de um assunto. 明日は用足しに大阪に行ってくる⁽⁶⁾。

O Ronaldo tentou fugir **aos** impostos. ロナルドは税金から逃れようとした。

A apresentação em português ajudou-nos **a** entender melhor a questão. ポルトガル語による発表で、我々が問題をよりよく理解するのに役立った。

O projeto de barragem obriga **a** que a população abandone as suas casas ancestrais. ダムの計画のせいで住民は先祖代々の家を手放さなければならない。

O quarto cheira **a** tabaco. 部屋はタバコの臭いがする。

- **após ...** 順序、時間的基準から後であることを示す。「ののち」。

Após uma longa viagem, ele alcançou o seu destino. 長旅の末、彼は目的地に到達した。

5. 動詞の支配 p.138, 192. 形容詞の支配 p. 139 参照。

6. 不定詞の前の前置詞 «para» はこの場合省いてもよい。p. 96 参照。

- „até a | até„ ... 状況の継続の期限を示す。「まで」.

Os funcionários trabalharam ontem „até às | as„ nove horas. 職員は昨日9時まで働いた⁷⁾.

- com ... 同伴、混合・混同などを示す。「とともに」. 動詞や形容詞の支配により用いられることも多い.

O professor visitou a Europa **com** a sua filha. 先生はお嬢さんとヨーロッパを訪れた.

Ele costumava aborrecer os colegas **com** telefonemas fora de horas. 彼は時間外の電話で同僚にはよくうるさがられたものだ.

Os docentes ficaram atónitos **com** a abertura do curso, numa altura em que aumentam vertiginosamente os afetados da pandemia 教員はパンデミックの感染者が急増するこの時期に講義を始めることには啞然とした.

- conforme ... 「に従って」⁸⁾.

Os voluntariados participam nas atividades **conforme** a sua disponibilidade. ボランティアの人たちは各人の都合によって活動に参加する.

- contra ... 反対、対抗などを表す。「に反対して」.

O especialista argumentou **contra** a ideia. 専門家は、その考え方に反対の主張をした.

7. 「...まで」を表す句前置詞 «até a» はPEに特有で、PBでは «até» のみを使用. PEでは句前置詞の «a» と «as nove horas» の定冠詞 «as» が縮約して «às» となる.

『基礎ポルトガル語動詞第1巻』 p. 116 参照. Cf. „até à escola | até a escola„

8. 類語としては «consoante», «segundo» がある.

補遺

- **sem** ... 後続する要素を除いて、「なしで」.

O João saiu de casa **sem** a carteira. ジョアンは財布を忘れて家を出た.

- **segundo** ... 「にしたがって」.

A água do rio encontrava-se poluída, **segundo** dados oficiais de 2010.
2010年の公式データによるとその川の水は汚染されていた.

- **sob** ... 監督、支配、影響を受けて、「のもとに」.

O museu desenvolveu-se **sob a orientação da** nova comissão. 博物館は新委員会の指導で発展した.

- **sobre** ... 関係を表して「に関して、について」.

Ele aconselhou-nos **sobre** a melhor forma de apreciar a comida tradicional. 彼はその伝統食品を味わうのに最善の方法について私たちにアドバイスした.

A comissão vai decidir **sobre** o destino do ensino deste país. 委員会は
この国の教育の行方を決定することになる.

- **visto** ... 理由、原因「であるから、なので」.

O funcionário não quis assumir qualquer responsabilidade, **visto** ter sido uma situação herdada do seu antecessor. 状況は前任者から引き継がれたものだからという理由で、その職員はいかなる責任も認めようとしなかった.

(2) 句前置詞

いくつかの語が集まって意味的なまとまりをなす句となり、その前後にある語と語の関係を成立させる機能を持つ。形式的には【前置詞＋名詞＋前置詞】、【副詞＋前置詞】、【名詞＋前置詞】、【前置詞＋動詞＋前置詞】が認められる。単なる一語の前置詞と異なり、意味を明確に表現できる。

(a) 前置詞＋名詞＋前置詞

■ a bem de ... 目的、大義「のために」.

Os pais esforçam-se **a bem dos** filhos. 親は子供のために努力するものだ.

O rapaz desmentiu **a bem da** verdade rumores corridos na internet. 青年は真実を明らかにしようとネット上で流れている噂に反駁した

■ à custa de ... 「の金をあてにして」.

A empresa automobilística tem vivido **à custa de** injeções de capital. その自動車メーカーは資本注入のお陰で生き延びてきた.

O rapaz tem 23 anos, não trabalha e vive **à custa dos** pais. 青年は23歳で、仕事はしておらず親がかりで生活している.

■ a favor de ... 「のために、に賛成して、を支払い宛先にして」.

O homem espiava **a favor da** pátria havia mais de dez anos. その男は祖国のために10年以上もスパイ行為をしていた.

O presidente emitiu um cheque de 2,5 milhões de ienes **a favor da** companhia de imóveis. 社長は不動産会社宛て250万円の小切手を発行した.

■ a fim de ... 目的「のために」.

O responsável pediu dados concretos **a fim de** esclarecerem a situação. 責任者は状況を明らかにする目的で具体的なデータを求めた.

■ à frente de ... 「の前に、の先頭に」.

O homem subiu ao apartamento deixando o carro **à frente do** edifício. 男はアパルトマンの前に車を停めると建物の中に入っていった.

O triunfo na guerra impulsionou a primeira ministra para um reinado de mais de dez anos **à frente do** governo daquele país. 戦争に勝利し

たことで、首相は10年以上同国政府の先頭で強力な統治へと突き進んだ。

■ a não ser ... 「でない限り」.

Não se deixavam entrar os clientes na loja, **a não ser** que levassem máscaras. その店では客がマスクをしない限り入店させなかった。 Não se vendem bebidas alcoólicas, **a não ser** identificada a maioria dos clientes. 客が成人と証明されない限り、アルコール類の販売はしない。

■ a nível de ... 「の水準・レベルで・の」.

Nesta região do país, apenas 60 por cento dos trabalhadores temporários auferem um rendimento **ao nível do** salário mínimo nacional. この地域では非正規労働者のうち6割しか国の最低賃金の水準の賃金を得ていない。

■ ao redor de ... 「の周辺で」.

Os amigos conversavam **ao redor da** mesa. 友人がテーブルの周りに集まりお喋りをしていた。

■ a pedido de ... 「の依頼を受けて、の要請により」.

A pedido do presidente da Câmara, a universidade adotou o sistema de aulas remotas. 市長の要請を受けて大学はリモート授業体制をとった。

■ a ponto de ... 限度「の点まで」.

No rescaldo da guerra, os músicos japoneses digeriram muito bem o novo estilo do jazz, **a ponto de** terem interpretado de um modo original as canções transmitidas através da rádio das forças de ocupação. 戦後の焼け跡で、日本人のミュージシャンは新たなスタイルのジャズを極めて良く消化し、進駐軍のラジオから聞こえる楽曲を独創的に演奏するほどだった。